



地域密着型特別養護老人ホーム

サンシャイン美濃白川

介護主任 田口 貴規さん



田口さんとの出会いは私が専門学校の学生だった頃、施設実習でサンシャインにお世話になったときでした。田口さんの第一印象は、「The 好青年!」です。実習では不安と緊張でいっぱいなのに、優しく丁寧に指導をして下さいました。

入職してから同じユニットで働かせていただいています。第一印象通りの誰からも好かれる人柄で、皆さんからとても頼りにされています。入居者さんだけではなく職員のことにもよく観てくださっており、私が入居者さんの対応に困っているときや業務が遅れているときには「大丈夫ですか?」とさりげなく声をかけてく

ださいます。田口さんと話している入居者さんの笑顔や安心した姿を見て、私もいつか田口さんのように入居者さんに安心感を持っていただけるような介護士になりたいと思っています。

そして、私にとって田口さんは緊張感と安心感のある方です。仕事がとても早くしかも丁寧で、一緒に仕事をするとな器用で大雑把な私はいつも圧倒されています。私が失敗をしたときには、間違いを指摘し、丁寧にアドバイスをしてくださいます。

いつもありがとうございます。勘違いや思い込みの多い私を笑って許して下さる寛容さにもいつも感謝しています。私もいつか田口さんのような介護のスペシャリストになれるよう、日々精進していききたいと思います。



地域密着型特別養護老人ホーム

サンシャイン美濃白川

笹本 朋子 記

※紹介された職員が次号で別の職員の紹介をしていきます。お楽しみに。

サンシャイン

周辺探訪

旧大山小学校校舎

JR下油井駅近くの高台にある旧大山小学校校舎。1984(昭和59)年に学校統合により廃校になった後も、本体は取り壊されることなく「見知食作館」と名を変え、地区公民館の役割を果たすなどしながら、2階建ての木造校舎の姿をいまにとどめています。

現在の延床面積は1千479㎡。建物の一部は「濃飛建設職業能力開発校」として、建築大工の育成に利用されています。

旧校舎が完成したのは1934(昭和9)年。それまで白山・河東の中央部にあった校舎が老朽化したためここに移転しました。

この年の10月10日付け岐阜日日新聞は、『飛騨川畔の一偉観 加茂郡西白川村大山尋常高等小学校 今日新築落成式』の見出しを付け、次のように伝えています。

『昭和七年三月敷地の起工式を挙げ、敷地は校下地元において、建築費用は村において負担し、建築は神淵村の長谷部周一氏が請、八月二十六日新校舎に児童を収容する事となった。校舎は棟行三十一間、奥行六間、建坪百九十八坪、普通教室七、特別教室三、職員室、図書室を配列し、総工費二万二千八

百六十三円、地元夫役負担は六千四十二人は実に特筆に値する。大山校は村当局の大英断と地元の熱誠とにより一転高山線駅頭に進出し、新校舎にある児童の光栄とこれに関与せられたる役職員の喜びや又大なるべし』。

校舎の建設はまさに白山・河東地区あげての大事業だったことが分かります。総工費は現在に換算すると4千600万円ほどでしょうか。思いのほか安くできていたことが驚きですが、これも6千人を超す地元のボランティアがあったからでしょう。



▲春の旧大山小学校校舎 (見知食作館)